

第22回 野沢温泉スキー合宿2019

11期 青柳 健二

・実施日 2019年2月15日(金)～17日(日)

・参加者 (4期)佐藤 (8期)野村 (9期)谷道
山中 (11期)青柳・井上 (12期)宮島
(13期)山西 (15期)上馬 (22期)黒崎 10名

今年のスキー合宿は、久しぶりに好天に恵まれ野沢で滑る楽しさを思う存分味わうことが出来ました。私個人の行動を中心に、その概況を報告させていただきます。

金沢・富山では雪の少ない冬だったようですが、野沢温泉のゲレンデは雪がタップリ、最高のコンディションでスキー合宿を迎えました。

参加者は10名、谷道さんが働き先の八方尾根から久しぶりに参加、昨年は荒天で殆ど滑れなかった黒崎さんがリベンジ参加、そして山中さんが1年振りに復活し、旦那さんが海外出張で山西さんが1人参加、スキーと野沢が大好きな常連組を加えて男子9名・女子1名での開催です。

15日(金)は朝から晴れ無風、気持ちの良いスキー日和でした。

早朝新幹線に入った黒崎さん、上田の宮島さん、白馬から入った谷道さんは午前中から滑り込み、佐藤さん・野村さん・上馬さんの金沢組も3日券を買って一滑り。関東から新幹線に入った山中さんと私は、飯山駅で井上さん・山西さんに迎えられ、11時に宿に入り、12時前には Gondola 上のレストハウスに向かいました。

やまびこレストハウスは、既に外人さんたちで満員でしたが何とか席を確保、すぐ全員が集合してスキー合宿のスタートです。今年のレストハウス、一番人気は「120g オージービーフのガーリックステーキランチ」眼の前でステーキを焼いてくれます。谷道さんは、これを大盛でペロリ。野村さんは3日間食べ続けたのです。私は、焼鳥丼を食べましたが、これも美味しかったですね。

午後からは、皆でやまびこゲレンデを滑りました。1650m毛無山山頂からは絶景が広がります。

記念写真を撮って、皆思い思いにやまびこAコースを滑ります。既にコースにはコブが出ていましたが、雪は柔らかく、快適に滑ることができました。黒崎さんは、この日の為にスキートレーニングを積んできたそうで、安定感ある滑りを見せていました。富山のたいらスキー場の急斜面で滑り込んでいる井上さん、膝がしっかり入った小回りで、このゲレンデで撮ったポスターのモデルのような滑り(ちょっと褒め過ぎか)でその上達ぶりに感心させられました。井上さんと谷道さんは、今やゲレンデより滑る人が多いリフト下の自己責任エリアを滑って悦に入っていました。

ひとしきり滑ると汗がタップリ。コース下の「喫茶ダンテ」に入ります。りんごソフトクリームを食べる。その冷たさと甘さが疲れを癒します。こんな時間が大好きなのだ。この場所に休憩所があるのが嬉しいです。

再度リフトを登ると、同じゲレンデで滑りながらすれ違いとなっていた佐藤さん達金沢3人組と合流。また記念写真を撮って、また少し滑って下山のモードに入る。私は、スカイライン連絡リフト横の小ゲレンデでカービング小回りの調整を少しして、スカイラインコースを滑り終えスキーを終えました。宿に帰ると4時を越えていた。半日だけだが、好天の中大満足のスキーであった。



(毛無山山頂 2019.2.15)

部屋は、「朝霧・夕霧」に、女性部屋の「さくら」と男2人用に「ひばり」を確保。何時ものように、朝霧・夕霧で、持ち寄ったお菓子とワイン・焼酎を開けて歓談する。お風呂は内風呂で済ます。疲れて中尾の湯に行く元気が出ない。私は、今回

の野沢では外風呂に入らず終わってしまった。最後の日の朝、佐藤さん・井上さんの二人が雪の降る中を中尾の湯に出掛けたのだが。

18時から夕食。この日は、我々10名と夫婦一組だけの食堂でした。信州名物の馬肉の他、工夫をこらしたメニューが並ぶ。全員が生ビールを注文して乾杯。すきっ腹にビールが染み入り、美味しい料理が疲れを取るエネルギーとなる。山西さんが、右手の中指根本に絆創膏を張っている。やまびこAコースで転倒して強く打ったとのこと。少し腫れていて痛みもあるとかで、やや気分が落ち込んでいる。それだからか、お酒の好きな彼女はビールをしっかりと飲んでいました。

一泊だけの人がいるので、宿のロビーで記念写真を撮る。7時45分ごろから、恒例の夜の宴だ。明日帰る、黒崎さんと谷道さんに話をしてもらう。黒崎さんの“観音坂いちえ”は、ひがし茶屋街の近くにある古民家カフェである。築100年の家を改築し自宅兼カフェとして営業しており、新幹線開業後いまだ観光客が多く来る場所であり、土日は休めないのだとのこと。今では芸子さん達とも友達になり、店にも良く来てくれるとのこと。それじゃしょうがない。朝の7時に宿を出て、新幹線で帰れば9時過ぎには金沢に着くのである。私も、大学での最初の下宿が、西の廊の元茶屋だったのだと・・・話が飛ぶ。茶屋を止めて空いた部屋を下宿として使ったのだ。夜になると微かに三味線の音が聴こえた。

谷道さんは、八方尾根でリフト管理の仕事をされている。今年で2年目。去年は山の上のリフトだったが、今年は風と雪が少ない下のリフトに変えて貰えたので続けているとのこと。5月から夏の間は、立山のホテルで働いているのだから、自然の中で生きることがとことん好きなのですね。最近、電源が切れてリフトがストップしたトラブルがあった・・・とのこと。リフトが30分超止まったのだ。何時回復するかわからずジリジリしたが、アルバイトの管理者には手が出せない。回復見込みがない時は、リフトから人を降ろす作業が必要であり、その訓練もしてはいたが、そうなる前に回復したのでホッとした・・・との事でした。まあ、余り無理はせず続けて下さい。

佐藤さんが、去年の11月1日に白山に単独行で登った時の写真を披露してくれました。

たまたま、前日に雪が降り、当日は見事な青空。素晴らしい雪景色を眺めながら頂上に立った、その時の写真でした。佐藤さんは、134回も白山の頂に立っているのですが、それだけ登れば白山の神様から素晴らしい贈り物が貰えるのでしょうか。その写真は佐藤さんのブログで観られますので、皆さんもご覧になって下さい。

さらに、佐藤名誉教授に昨年9月に発刊された教科書「人間工学の基礎」の話をして頂きました。本の目次を示し、大惨事となった航空機事故・列車事故で明らかとなったヒューマンエラーの事例をあげながら人間工学の考え方・役割を説明して頂きました。喜寿を越えてなお、フルマラソンを走り、スキーを続けられる佐藤さんの生き様が、正に人間工学の集大成とも思われ、リクエストをしたのですが、この教科書が生かされ・活用されることを願うものです。

いつの間にか10時を越えており、夜の宴はこれでお開きにして就寝となりました。



(全員集合 2019. 2. 15)

16日(土) この日は、朝から雪。

朝7時に、黒崎さんは金沢に帰って行きました。山西さんは、昨日怪我をした左手の痛みがひかず、スキーを中止して帰宅することになりました。谷道さんが、長野駅まで車で送っていくことになりました。宮島さんは、今日はお休みを宣言。7時半から朝食。具材タツプリの朝ごはんを食べ、りんごジュースを飲みエネルギーを注入しました。9時過ぎに、車で帰る谷道さん・山西さんと

「又来年！」と別れて、6人でスキーに出発しました。

長坂ゴンドラを登ると外は真っ白なガス、上は殆ど視界が効きません。この日は、湯の峰・水無ゲレンデで滑ることにします。湯の峰ゲレンデに着くと、雪は静かに降るも視界はまずまず、この日は、終日このエリアで滑ることになりました。薄く雪が積もったゲレンデは、コブも無く滑り易い。ブナとダケカンバの森の中の小さなゲレンデだが、雪が樹々に積もり幻想的な雰囲気。何より、スキーヤーが少なく穴場的なゲレンデなのです。自分のスキー術を確認し、調整・練習をするのには最適です。ただ、欠点は昔あった小屋がなくなって、休憩トイレ場がないこと、チョット辛い。斜面が緩やかな湯の峰ゲレンデを滑り、調子が出てきたところで上・中級者用の水無ゲレンデを滑る。短いリフトだが、人を変えて二人で色々話をするのが楽しい。

11時過ぎに早めに昼食を取ろうと中間駅から、ゴンドラに乗りレストハウスに入りました。

6人なので上の平には降りずに、レストハウスやまびこで昼食をとる。この日は、醤油ラーメン。受験休み・春休みになり若い学生達が多い。12時近くになると混みだしてくるので、席を立ちスキーに出ることに。疲れが溜まった山中さんは、下に降りるとのこと。さてスカイラインを降りたのか？

やまびこ方面は未だ視界が効かないので、5人でまた湯の峰・水無ゲレンデで滑ることにする。ひとしきり滑って、中間駅から上に登って休憩。一階のカフェでコーヒーを飲む。2時過ぎに、佐藤さん達金沢3人組は、スカイラインで降りることに。私と井上さんは、やまびこ4リフトで上に登ってみた。上は、やはり視界が効かない。山頂には登らず、やまびこDコースを滑って、リフトで登り返し、やまびこEコースからスカイラインコースに入って、この日のスキーを終えた。

宿に着くと3時を過ぎたところ、特製の甘酒をいただいて、疲れを癒したのでした。この日はスキーを休んだ宮島さんは、スパリーナに出かけてサウナで体を癒したと聞く。

この日の夕食は、子連れの家族が入って賑やかであった。我々は3人が帰って7人、チョット寂しい。鯉のコブ締め刺身の他、賑やかな食卓であった。飲ん兵衛がいないので、日本酒を飲む者がいない。私は、生ビール一杯で充分であった。隣の席で、ハッピーバースデーの歌が響いた。

夜の宴は、7人では宴とはならない。私が持ってきたDVD「自然で楽なスキーのすすめ」を試聴した。このDVDは、重力とスキーの性能を活かして、力まず楽なスキーをするように勧めている。筋力の衰えた高齢者には適した滑り方だ。私の課題である小回り、井上さんの課題である大回りの展開を観て、明日のスキーの参考にしてもらった。

テレビに戻すと「外国人が好きな温泉地ベスト10」という番組をやっていた。今や外国人天国である野沢温泉が何位に入るのか、皆で観る。指宿や草津、箱根などが出てくるが、野沢温泉は出てこない。結局一位は秋田の乳頭温泉であった。雪景色と乳白色の温泉が好かれているようだ。20位以内には入っていたようだが残念なり。

番組が終わると9時であった。皆、疲れが出たのか布団を引き出す。このまま、就寝となる。

17日(日) 朝起きると雪が降っていた。予報は、雪のち晴れとある。

会計を済ませて、朝食をとる。山中さんは、もうタツプリ滑ったからと、この日は滑らず先に帰るとのこと。昨日休んだ宮島さんを入れて、今日は6人で滑ることになる。9時過ぎに、山中さんに送られてスキーに出る頃には、私の期待したとおり雪が止み日差しが出ていた。

日曜日であり、ゴンドラ乗車の列が建物を一周していたが、速やかに進みゴンドラ上に出る。やまびこゲレンデへ向かう斜面は、人が一杯だ！これを見て、午前中は湯の峰・水無ゲレンデで滑ることにする。湯の峰ゲレンデでは、シュプールを描く新雪の滑降を期待したが、既に滑られていて、10cm弱の新雪の中に沢山のシュプールが書かれている状態。却って滑りづらい。水無ゲレンデは、より多くの方が滑ったためか圧雪状態となっていて滑り易い。主に此方で滑ることにする。新雪を被ったブナの樹が綺麗だ。昨日観た

DVDのイメージを頭に入れて滑る。
コースの隅の新雪が残るエリアに入るなどして、
色んな滑りを楽しむ。愉悦の時だ。

昨日同様、早めに昼食を取ろうと 11 時過ぎには、ゴンドラに乗りレストハウスに入った。
上手く席を確保して昼食。今日は、野菜カレー。
これも美味かった。この日は子供づれが多く賑やかだった。やはり、子供たちにもっとスキーを楽しんで欲しいと思う。

12 時頃にはレストハウスを出る。佐藤さん達は、スカイライン連絡リフト横のゲレンデを少し滑ってスカイラインを降りるという。膝に痛みが出ているという宮島さんも、降りるという。私と井上さんは、残ってやまびこゲレンデを滑ることに。また来年に会いましょうと、別れた。



(スカイラインコースにて 2019. 2. 17)

すっかり晴れて、霧氷がキラキラ輝いている。昼食の時間帯で、リフト待ちはそんなに無かった。毛無山山頂では、またまた絶景が待っていた。人が少ないやまびこAコースを気持ち良く滑った。この日のリフト下は、ボーダーが多い。ボーダーが滑るコースはU字バーンとなっている。

井上さんが、自己責任エリアを滑りたい様子。久しぶりに私もその気分となった。井上さんには、リフト下でなく出来るだけ林間を滑るように指示すると、上手くコース取りをしてブナ林の中を滑っていく。私も、後に続いた。昼過ぎであり、林間も既に多くの人が滑っているので、全くの新雪状態ではなく、人の滑った後をトレースすることにはなるが、それでも結構面白く、林間を滑り降りることが出来た。汗もタップリかいたので、

また「喫茶ダンケ」で休憩。山ぶどうジュースで喉を潤した。晴れの日の至福の時間を楽しんだ。

1 時半過ぎに、ダンケを出た。井上さんは、まだ林間を滑りたい雰囲気。今度は、下のやまびこ4リフトの横のブナ林の中に入った。井上さんは、すっかり林間滑降に魅了されたようだ。上手くコース取りしてどんどん降りていく。脚に疲れが溜まってきた私は、制動が上手く効かず雪の塊に入り込み大転倒、冷汗をかいたのでした。慣れないことはするものではありません。

やまびこEコースを滑り、連絡リフトを登ってスカイラインの上に出る。さあ、野沢の最終滑降と、少し気合を入れなおし、スカイラインコースを滑り降り、今年の野沢スキーを終えたのでした。宿に戻ると3時を越えたところ。まずは怪我をせず、無事に滑り終えたことが嬉しかった。

以上、野沢温泉スキー合宿 2019 を総括してみました。

今年のスキー合宿は、参加者が10名でしたが、天候に恵まれ楽しいスキー合宿となりました。ただ、初日に怪我をして一日滑っただけで帰られた山西さんは残念でした。怪我の治療には1ヶ月以上かかったようですが、今は全快し医師の仕事にも復帰しているようです。また来年は頼れる旦那さん共々ご参加下さい。

私も今年は6度目の年男、でも喜寿を越える先輩もあり、殆ど一緒に滑った井上さんも私より年長、まだまだスキーを続けたい。いまだスキーに興じることが出来るのは、このスキー合宿ありきなのだ。加齢もあり最近太り気味なのが悩ましいのだが、何とかスキーが出来る体を確保したいと思っている。涼しくなったところで、スキートレーニングを始めよう。

この夏は、長雨の後は猛暑に見舞われ殆ど外に出られず、嵌まっている葉室麟の歴史時代小説を読んで過ごした。お勧めは、“いのちなりけり” “花や散るらん” “影ぞ恋しき” の3部作。作中の和歌『春ごとに 花のさかりはありなめど あい見むことは いのちなりけり』を記して本文を終りとしたい。